

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600568		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームひかり 1階		
所在地	静岡県三島市徳倉3丁目1-51		
自己評価作成日	令和 5年11月 5日	評価結果市町村受理日	令和6年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600568-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「居心地よく お互いさまに」を念頭に置き、入居者様が自分らしさを大切に生活していただける様に想いを尊重し寄り添いながら、同時に働く職員も入居者様に助けられながら、一つの大きな家族のように毎日を楽しく健康に過ごせるような環境作りやケアの提供を心がけています。年間を通して季節の行事や食事を楽しんでいただき、季節を感じて頂ける様に職員一丸となって工夫をしています。また、町内の一員として清掃活動や防災訓練の参加、認知症サポーター養成講座へ講師として参加して、認知症の理解を深めて頂ける様な活動を行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が多く入れ替わったが、経験豊富な職員が介護経験の浅い職員に指導を行い、職員同士話しやすい関係を保ちつつ、情報の共有もできている。運営推進会議は書面開催時から家族によびかけ、意見や要望を頂けるよう働きかけていたので、対面開催となり意見が多く寄せられ、Q&Aも充実している。協力医の担当が代わり、各事業所で希望する研修を医師が行ってくれることになり、今年は感染対策について学ぶことができた。口腔ケアにも力を入れ、歯科医に利用者の歯の状態をチェックしてもらったが、今後は継続して取り組む予定でいる。8月にコロナのクラスターを体験し大変な思いをしたが、BCPIに沿って、法人の援助もあり、乗り越えることができた。今後の課題も見つけたり検証している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「居心地よく お互いさまに」を玄関・事務所・各フロアの見える所に掲示し周知して、理念のもとにケアを行っている	4～5年前に事業所の理念を職員全員で見直し現行のホーム理念に作り上げ、継続している。玄関、事務所、各フロアに掲示し、職員は各自個人の目標も設定し、人事考課で確認、振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や防災訓練に参加、回覧板などで地域の情報を得ている	自治会に加入し、地区の防災訓練や清掃には職員や管理者が参加している。地域のどんど焼きの案内があり、利用者と職員で参加する予定でいる。また、今年は特別支援学校の実習を受け入れ、地域との交流も深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト活動を通じて市内の企業において認知症サポート養成講座を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に対面での会議を行い、ホームの運営状況を報告している。会議内で頂いた意見をユニット会議などで取り上げ、サービスの向上に努めている	運営推進会議は、7月から対面で実施し、現在、家族の参加もあり多くの意見をもらい、運営に反映できるよう努めている。議事録は全家族に送付し、職員も閲覧できるようにし、事業所のHPでも公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	三島市グループホーム連絡協議会に参加し、市や他事業所と連携や情報共有を行っている	3か月に1度開催されている三島市のGH連絡会に参加し、他の事業所との情報共有を行っている。アルツハイマーデーや介護の日に掲示物を出展している。地域包括支援センターからキャラバンメイトの依頼があり、管理者が講師を引き受けたり、介護サービス相談員も月に1回訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行い、身体拘束・虐待防止委員会を設置。年4回の委員会・3回の研修を行い、日頃より啓発活動を行っている。	指針、マニュアルは整備され、職員はいつでも閲覧でき、新入職員のオリエンテーションに使用している。委員会は管理者リーダー、職員、計画作成者で年4回行われ、研修は全職員で年に3回行い、今年度は「不適切ケア」について学びを深めている。	

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に事業所内で虐待防止に取り組んでいる。虐待の芽が出来ないように業務内容やケアの方法を話し合い、ホームの現状に合った研修を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてユニット会議や勉強会で理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時、契約時に分かりやすく説明をしている。不明な点はその都度説明をするようにしている。改定があった時は説明の上、同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ご家族からは面会時や電話連絡の際に意見要望を伺うようにしている。入居者様からは普段の会話の中で、要望を表せるように務めている。頂いた要望や意見は申し送りノートやユニット会議の時に共有し、運営に反映させている	担当職員が施設の様子を利用者の体重とコメントを記入し、写真を添付して毎月家族に送付している。管理者や計画作成者は家族に電話連絡時に要望や意見を尋ね、会議や申し送りノートで情報を共有している。今後家族アンケートを行う予定でいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議時に意見や提案を求めている。日常的に意見や提案がある時は、リーダーや管理者に気軽に言えるような関係を築いている	職員が多く入れ替わったことで、新たな意見や提案があり、運営に反映できるようにしている。ユニット会議ではリーダーが司会進行をし、職員に意見を出すように促し、利用者のカンファレンスも行っている。管理者はリーダーから会議内容の報告を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	本社による労務管理や年1回人事評価を行い個々の能力に合わせた給与改定、定期的な面接を行い本人の希望や要望の聞き取りを行い、個々のやりがいが持てたり、事情に配慮した働きができるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのための資格取得を勧め、対象となる職員へ助成金制度や研修の情報を伝えている。法人内外の研修へ参加できるように勤務調整をしている		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市グループホーム連絡協議会、研修に参加し交流を持っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談にてご本人様・ご家族様の話を傾聴し、入居に向けて不安や疑問点などに対する説明を行い、双方が納得できる対応方法を提案しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、解決に向けて職員間で情報を共有し対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他職種と連携を図りながら、より良いサービスを提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	想い・自己決定を尊重し対等の関係を前提に接している。家事手伝いなど役割をもって頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報共有し、想いに耳を傾けながら入居者様と一緒に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との関係、馴染みの場所へ外出できるようにしている	コロナウイルスが5類に移行した5月以降は、事前連絡をしてもらい、時間、人数制限なしで各居室で面会が再開され、家族以外の友人や知人の訪問もある。家族には外食や外出に連れ出してもらえるよう促し、散歩に出かけると近所の人と挨拶を交わす関係性を維持している。	

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取れるように支援し、居間では気の合う方同士で座っていただけるようにしている。居室対応の方には、仲の良い方を居室に遊び行けるよう誘導している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先のケアマネから様子を聴いたり、退居後でもご家族様から相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望や願いを聞き取り、ホーム内でできる限り対応している。ホームでの対応が難しい場合はご家族にも協力をお願いしている	職員は利用者の話を聞いたり、表情を観察して何を欲しているのか、どんな気持ちなのか本人本位に検討している。わからないことは家族に聞いたり職員で検討している。できるだけ居室や環境を変えないような努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃の会話の中からや、ご家族訪問時に話を聞き、これまでどのように生活されていたかの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当職員を中心に、1人1人の生活状況をカンファレンスや申し送りノート等で共有し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員には書面で意見を出してもらったり、ユニット会議の中でモニタリングを行い、日常の様子を話し合っている。ご家族には電話や面会時に意見をいただいている	カンファレンスは毎月の会議で行い、記録をとっている。モニタリングは担当職員に情報シートに記入してもらい、計画作成者がシートやノート、日報を見て行っている。家族や本人の要望を聞き、課題分析をして、医師、薬剤師、看護師の意見も聞いて介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに日々の様子を記録している。特記事項は支援日誌や申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内だけでなく医療機関や、行政と連携をとり柔軟な対応が出来るように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、自治会、民生委員等と連携を図り、地区の行事にも積極的に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医だけでなく、入居者様やご家族が希望される医療機関への受診相談、支援を行っている。ホーム医以外の医療機関へ受診される場合は細かな情報をお渡ししている	1名の利用者が家族対応でかかりつけ医を受診し、他の利用者は協力医に毎月、全体1回、個人1回の訪問診療を受けている。協力医はほぼ毎日来所し、訪問看護師は週に1回健康チェックで来所している。体調で気になることがあると看護師との連絡帳で情報交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的にホーム医から訪問看護師が健康管理に来ている。訪看との連絡シートがあり相談、報告などは書き込み指示やアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には管理者かケアマネがソーシャルワーカーや病棟看護師と連絡を取り、対応している。入院中も医療機関やご家族と連絡を取り情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が悪化された時には主治医、ご家族との話し合いを行い、ホームでできる事を十分に説明している。ご家族が、ホームでの看取りを希望されたら、カンファレンスを開催し支援方法を話し合っている	入居時に重度化終末期について事業所の方針を説明し、本人家族の意向を聞いて同意書もらっている。状況により再確認しているが、今後は1年に1回再確認の予定である。状態に変化があると医師が家族に説明し、家族の意向を聞き、看取りを希望された場合、職員全員で看取りカンファレンスを行い、本人、家族の希望に添えるよう話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って対応をしている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回想定を変えて防災訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、地域に高齢者施設がある事を知ってもらうようにしている。法人でBCPを作成し協力体制ができています	防火管理者と管理者が計画を立て、年に2回防災訓練を行っている。7月は避難訓練をし、個別に避難場所までの所要時間を計り、記録している。12月には消火訓練と通報訓練を行う。備蓄と備品はリストを作成し、ローリングストックをしている。	職員が入れ替わり、新しく夜間訓練のBCPを作成中とのことですが、完成次第、訓練を早急に実施できるよう期待します。地域との協力体制の構築も希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳の保持とプライバシーを大切にサービスの提供をしている。	年に1回研修を行い、新入社員は入社時に尊厳とプライバシーについて学んでいる。排泄時のトイレ誘導やオムツ替えの対応等の声かけの仕方、スピーチロックには特に気を付け指導している。職員同士でも注意しあえる関係づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方にはできる方には自己決定が出来るような言葉かけを行っているが、困難な方にはしぐさや表情から汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースとなる1日の流れはあるが、入居者様には無理強いせず、柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは入居者様自身に選んでいただいている。選択が難しい方はご家族から好みを聞くなどしている。身だしなみに必要な基礎化粧品などをご家族に依頼し持ってきて使用してもらっている。ヘアカットの希望があれば、訪問美容をお願いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	習慣になっている事などを聞き、負担にならない程度に、職員と一緒に調理、盛り付けなどをお願いしている。また、誕生日には当事者に食べたいメニューを聞き提供している	食材は生活協同組合やリクエに配達してもらっている。献立は利用者に食べたい物を聞いて対応している。利用者には野菜の皮むきや和え物等できることをお願いしている。夏には敷地内で取れた野菜を使用したり、テイクアウトや誕生日には好きな物を食べてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師と相談しながら、個々の状態に合わせた食事量や水分量を提供している。飲料は何種類か用意し選んでいただいている。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホーム医の定期的な歯科検診を受け、個々の口腔ケアの方法の確認。毎食後に口腔ケアの促しを行い、ご本人にできる所まで行っていただき、仕上げを手伝っている。マウスウォッシュやスポンジブラシを使用し口腔内の清潔を維持できるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。立位の取れない方も2人介助にてトイレ誘導し、トイレで排泄ができるようにしている。	個々の排泄パターンを把握して、時間や利用者の表情や様子を見てトイレでの排泄を支援している。家族の要望もふまえて2人介助で行う場合もある。自立の利用者は夜間でも自分で起きてトイレで排泄されるので、職員は見守り、確認をし記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトや10時に牛乳を使った飲料の提供、寒天ゼリーなどで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の誘いに日にちや時間変更の希望があれば対応しているが、入浴が嫌いな方において中々タイミングが難しいときがある。入浴剤の使用や他の話題から入浴したくなるような気持ちになっていただくようにしている	脱衣室や浴室の温度に配慮し、気持ちよく入浴できるようにしている。利用者は週に2~3回入浴しているが、医師から皮膚の清潔を保つように言われている利用者は1日おきに入浴している。入浴拒否者はいないが、職員は声かけや誘導の方法を工夫している。入浴剤は2種類用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を整え気持ちよく休めるようにしている。体調に合わせて、午睡などをお勧めしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の服薬状況が分かるように、各フロアにファイルを置いている。日々のバイタルや排便状況などで内服薬に疑問がある場合は主治医に現状報告を行い、見直しをして頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど、個々の得意とされている事をお願いし役割を持っていただいている。歌や体操などで気分転換をしながら体を動かしてもらっている		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に近所の散歩などは行えている。ご本人の希望でご家族が畑や外食、お墓参りなどに連れて行って下さっている。	天候により、近くのお寺に出かけ帰りに自動販売機で好きな飲み物を購入したり、外気浴を兼ねて施設の周りの草取りや育てた野菜の収穫をしている。家族にも外出外食に連れ出してもらえよう働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理規定に基づき、必要時に利用できるようにしている。散歩の帰りに自動販売機で飲み物を購入されたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様が希望されたら都度対応するようになっている。ご家族へホームより電話連絡を入れた時などに入居者さまと電話を替わり話ができるようにしている。個人で携帯を持っている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃アシスタントの職員が共有部分、各居室の清掃を行い清潔を保つようにしている。廊下や居間には季節に合わせた飾りつけを行っている	居間兼食堂の壁に大きなクリスマスツリーが飾られ、壁にも季節感のある装飾がされている。清掃職員が週に5日、共有部分や居室の清掃を丁寧に行い、さらに床や手すりの消毒も行い、利用者の安全と安心を確保できるように努めている。夜勤の職員も夜間に清掃、消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	構造上、共有部分で一人になれる空間の確保は難しいが、のんびり新聞を読んだりできるようにソファを居間に設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族と相談しながら在宅で使用していたものなどを持ってきていただき、環境を整えている。(仏壇・冷蔵庫・タンス)	居室にはクローゼットと洗面台が備え付けられ、自宅で畳にベッドの利用者の部屋には畳が敷かれていた。家族との相談で、自宅からこたつテーブルや座椅子など使い慣れたものを持参してもらい居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室のネームプレートなどを掲示して、入居様が混乱なく自身で行動できるように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600568		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームひかり 2階		
所在地	静岡県三島市徳倉3丁目1-51		
自己評価作成日	令和 5年11月 5日	評価結果市町村受理日	令和6年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600568-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「居心地よく お互いさまに」を念頭に置き、入居者様が自分らしさを大切に生活していただける様に想いを尊重し寄り添いながら、同時に働く職員も入居者様に助けられながら、一つの大きな家族のように毎日を楽しく健康に過ごせるような環境作りやケアの提供を心がけています。年間を通して季節の行事や食事を楽しんでいただき、季節を感じて頂ける様に職員一丸となって工夫をしています。また、町内の一員として清掃活動や防災訓練の参加、認知症サポーター養成講座へ講師として参加して、認知症の理解を深めて頂ける様な活動を行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「居心地よく お互いさまに」の理念を掲げて、各フロア、事務所、玄関などに掲示し実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃活動や防災訓練、散歩時の挨拶などで地域の一員となれるよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト活動を通じて市内の企業において認知症サポート養成講座を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より対面での会議を開催し状況報告・意見交換を行っている。参加者からの意見を取り入れている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡協議会に参加し情報の発信・交換や共有を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、身体拘束委員会を設置し定期的に研修を行い日頃より啓発活動を行っている		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に虐待防止に取り組んでいる。虐待の芽が出来ないように業務内容やケアの方法を話し合い、新人職員にも分かりやすく学んでもらうようにホームの実情に合った研修を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もいるので、制度について学ぶ機会をカンファレンス等でもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、契約時には丁寧な説明を心がけ、改定時には書面にて説明して理解・納得をして頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、面会時など常に意見や要望を伺える体制を取っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はいつでもリーダーや管理者に意見や提案を言えるような環境である		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、給与水準、実績把握等、本社の管理の下行われている。管理者との定期的な面談があり、職員の要望や勤務に対しての相談が出来る		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各資格取得に助成や研修の情報を伝え、希望すれば勤務調整を行っている		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市グループホーム連絡協議会主催の研修などに参加し交流を持っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談で御本人やご家族の話を伺い、不安や要望を吸い上げ、双方が納得する対応方法を見出すまで話し合いを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネが主になり不安や要望に耳を傾け、解決に向けてユニットで話し合いを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じた他職種との連携を行い、より良いサービスの提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「居心地よく お互いさまに」の理念の下、家族の様にお互いに助け合うよう関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナによる面会制限もなくなり、ご家族がいつでも面会や外出が出来るようになった為、可能な限りご家族に面会や受診などに行っていただき関わるように言葉かけを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限がなくなり、気軽に知人が面会に来られたり、ご家族の協力を得て馴染みの場所に出掛けています		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室に籠りがちの方には職員が間に入るような形で居間に誘いコミュニケーションの機会を作り、入居者様同士の関わりができるようにフォローしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居、退居後でも、ご家族より相談を受け付けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で意向や要望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント表や、ご本人やご家族からの聞き取りで、入居するまでの生活歴を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活と毎日摂取する中で把握し全職員に共有できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やモニタリングで意見を出し合って必要なケアを模索している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに記録することで、日常の様子はいつでも見る事が出来て、特記事項などは申し送りノートや支援日誌を活用し職員間で共有し、見直しの必要があれば計画作成担当に伝えている		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内に拘らず、行政や医療機関と連携を取り柔軟に対応するようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍だったため、地域資源の活用が出来ていなかったが行政、町内会との連携を取り、少しずつ活用する機会が増えてきている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム医の他、入居前のかかりつけ医に受診する事もでき、その際には必要な情報の提供をしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日ホーム医から訪問看護師が健康管理に来ている。ホーム医が主治医ではない入居者様でも、相談することができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者、ケアマネが医療機関のソーシャルワーカーや病棟看護師と連携を取り、スムーズな支援が出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化があった場合に主治医、ご家族と話し合いを行い、終末期の希望を話し合い、ご家族の意向確認を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って対応している		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。法人で災害時のBCPを作成し、協力体制が出来ている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしを損ねないような言葉かけや対応を心がけ、プライバシーを大切にしたいケアを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表しやすいような信頼関係の構築に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる1日の流れはあるが、無理強いをせず柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には衣類の選択ができるように働きかけている。ヘアカットを希望された時には訪問美容を依頼している。基礎化粧品など、ご家族に依頼し用意していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンで調理することで、調理時の香りや音を感じていただき、個々の能力に合わせて準備や片付けを手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく栄養が取れるように肉、魚、野菜と工夫して提供している。		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホーム医の定期的に歯科検診を受け、個々に合った口腔ケア方法の確認。毎食後に能力に合わせて、ご本人のできる事はやっていただき、できない部分のみ介入している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導や、立位の取れない方でも職員2人対応でトイレに座っていただき、トイレで排泄が出来るようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトや牛乳を使った飲料の提供、体操や水分不足にならないようにゼリーなど提供し予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意向を聞きながら、入浴が楽しめるように複数の入浴剤を用意してお誘いしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を整え、エアコンや加湿器を使用し快適に休めるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医と連携を取り、本人の状態に合わせた処方相談を行い、内服に変更があった場合は症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いの他、パズルや囲碁、塗り絵など入居者が楽しめるように複数用意している		

静岡県(グループホームひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームとしてはその日の希望に沿って出かける事は少なく近所に散歩に行くくらいしかできなかったが、ご家族の協力があり外食や墓参りなど出掛ける事ができた		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理規定に基づき、必要時に利用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームからのお便りに入居者様が一言書いたり、電話の取次ぎをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃アシスタントの職員が共有部分や居室の清掃を行い清潔が保たれている。居間や廊下には季節に合わせた飾りつけを行っている。温度計、湿度計を設置し、必要に応じてエアコンや加湿器で調整している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で会話ができるような席の配置を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのあるものを持参していただき居心地の良い空間作りに配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口のネームプレート、トイレの表示など入居者様の見えやすい所に貼り、混乱なく自身で移動できるように工夫している		